

TEIKA NEWS LETTER

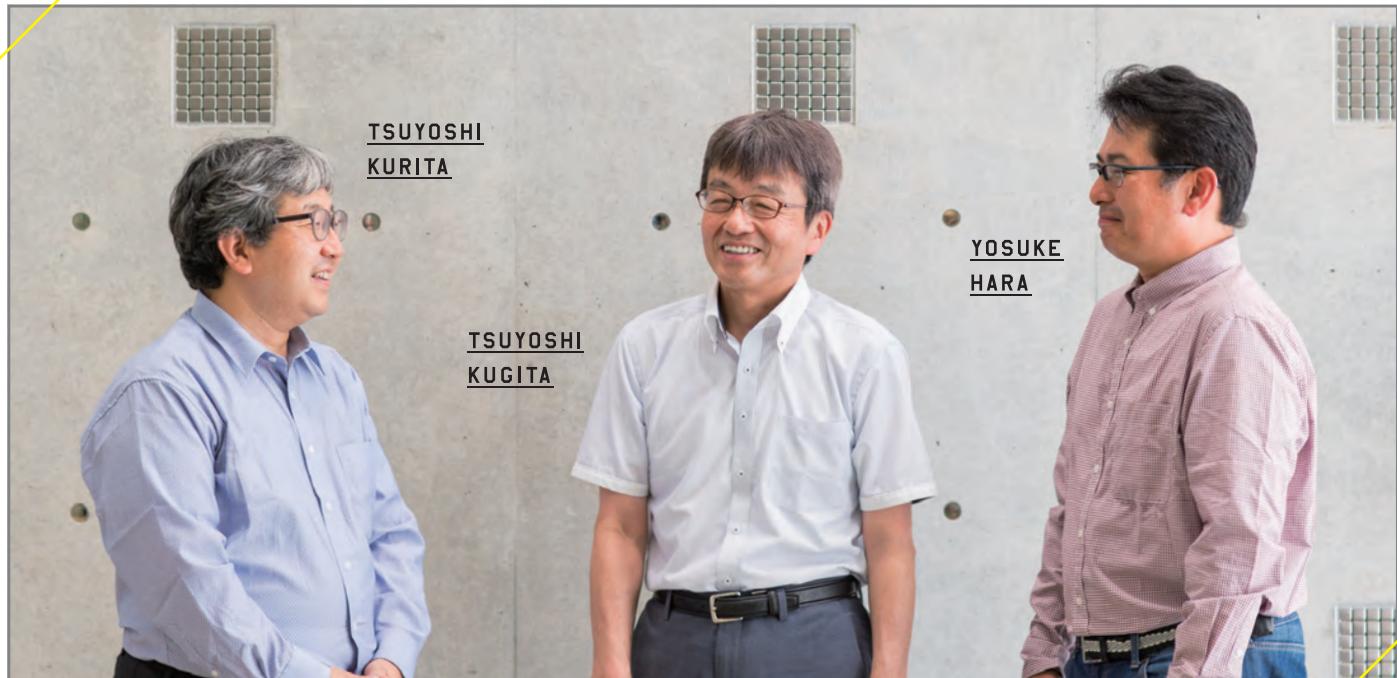
2019

VOL 32



大学も学生も、若かったからこそあふれていた熱気。

卒業した今もその気持ちは忘れない。



教授 釘田 強志 教授（写真中央）生命環境学部 自然環境学科

本学創立より関わり、現在も同大学で教鞭を執る。主な研究課題は「環境調和型触媒の合成」。現在は、教務部長および学科長を務める。当時は助手として栗田さん、原さんを指導。いまでも定期的に情報交換をする間柄。

卒業生 栗田 毅さん（写真左）理工学部 物質工学科 1994年3月卒業

本学の1期生。大津賀望研究室で、セラミックスの成形について研究。大学卒業後は大学院に進み、博士課程を修了。博士（工学）の学位を取得。現在は、ベントナイトを扱う会社で技術部長として活躍。

卒業生 原 洋介さん（写真右）理工学部 物質工学科 1995年3月卒業

本学の2期生。浅賀喜与志研究室で、セメント化学を研究。現在は、大学時代の研究を活かしコンクリート製品の技術開発を担当。技術者にとって最高位の国家資格「技術士」を取得。

開学当初から実績のある教員が揃っていた。

釘田 強志教授（以下釘田）：私は、理工学部物質工学科に、助手として採用されました。現在の生命環境学部自然環境学科の前身ですね。当時の1期生が栗田君、2期生が原君です。

原 洋介さん（以下原）：釘田先生は、基礎科学実験とか物質工学科実験の助手をやってましたよね。学生実験の助手。そういう立場で、教えていただきました。

栗田 毅さん（以下栗田）：私たちは講義も受けっていましたよ。お世話になりました。当時、私の専攻はセラミックスで、焼き物とかレンガとか陶磁器とか。いわゆる窯業の研究でした。材料の成形から焼を入れるところまで、その変化や影響、窯業の基礎的なところを研究してました。

原：私はセメント化学です。卒業研究の内容が、「セメントに混ぜ物をしてどう反



応するか?”“どう変化するか?”というものでした。

釣田：大学での学びもそうですが、彼らは社会人になってからの努力がすごいのかなと思いますね。基本的には、大学で学んだことが活きてるとは思うんですけど。当時の物質工学科っていうのは、“材料は世界を変える!”“技術革新はまず材料から!”という考えがあったんだよね。本学も、当時はそういうキャッチフレーズで学科構成してた。それで、その世界のプロフェッショナルや業界とつながってる先生方がたくさんいらして、今以上に熱気があったね。今ももちろんそうだけど、それ以上に学生を育てようという気概があったと感じる。世界で名だたる先生もいらっしゃって。

栗田：新設校なのに、若い先生と年輩の先生がいらっしゃって。バリバリやる先生と俯瞰的に見ることができると、先生のつながりいろいろな方とお話をできたり。恵まれてました。

研究室に、こもりきりの生活。 それが団結を生んだ。

原：そういう情熱に感化されて、私も卒業研究をすごく頑張ってやったという記憶があります。

釣田：全然そういうふうに見えなかったけど(笑)



栗田：原君は、大学4年間の最後の半年は頑張りました(笑)あの時は、研究室からほとんど出ないくらいの生活でしたからね。除夜の鐘も研究室で聞きました

た。研究室に泊まり込むと仲間で集まって夕食をとったりとか、普通にやってましたね。先生方も付き合ってくださって。それでまた、実験に戻ったり。

原：いろんな人のタイマーがジリジリ鳴って。



栗田：実験室や実験道具を共有するから、団結みたいな気持ちが生まれる。皆で違う実験してるんだけど、一緒に協力してやっているような。研究室はそれで気持ちが一つになる、みたいなことなんですよ。ずっと合宿してるみたいなものですからね。研究室には大きな研究テーマがあるんですが、それの一部をそれぞれが卒業研究でやっているんです。

釣田：それぞれ独立した研究と言うこともできるけどね。

原：測定機器が同じなので、取り合いになつたりします(笑)

釣田：そういう意味でも、当時から学生と教員の距離は近かったよね。開学したときは1学部4学科の小規模な大学だったから当然かも知れないけど。その雰囲気は、3学部13学科となつたまでも続いている。距離が近いので、学生も遠慮せず接してくれる。いろいろな会話や議論ができるのは変わらないね。真剣な討論の中で、学生から学んだこともたくさんあるよ。

先生方のおかげで、不自由なく 実験できた。

栗田：当時は新しい校舎というか、まだ設備が揃ってなかっただんですよ。

釣田：まだ壁にベニヤが貼ってあったね。キャンパスには本館と言われている

建物が一つと平屋の学食だけ。でも、すぐ実験を始めなきゃいけないから、納品されてるものを開けて、足りないものは注文して。助手だったけど、しばらくは一人で準備してたね。一人でダンボールと戦ってた。

栗田：だけど、中途半端な授業しか受けられなかった、という覚えはないですね。学生実験もきちんとやっていただきました。今にして思えば、釣田先生やたくさんの先生方のお力添えがあったからこそだと。感謝したいですね。

卒業生として母校にできること、 協力して何かを残したい。

栗田：東京にある千住キャンパスは、大きいきれいで交通の便も良く、理想的ですね。学ぶにはとても良い環境だと思います。東京西キャンパスは、周りに遊びに行くところもなかったので、勉強に集中できる環境ではありました(笑)卒業生としては、母校がいつまでも存続してほしいと思います。それに対して、私たちができることは何か。



原：卒業生たちが、仕事や様々なことで関わりを持って、一つの集団として何か大きな力が發揮できるような、そういうふうになればいいですね。私も今、現場で先輩とか後輩がいたり、同級生と仕事で関わりがあるんですけど、まだまだ小さな集団でしかないんですね。でも、帝京科学大学卒業だよね、というようなことでどんどんつながって、大きな集団で何か残せたらいいなと思います。それは、卒業生たちも積極的に関わってこそだとも思います。

NEWS TOPICS

TOPIC
01

～医療を学ぶために～ 「医学教育センター」の役割・実践・目的

医学教育センターは、医療科学部の根幹をなす医学教育に関する講義・演習・実習に加えて補習・セミナーを行い、さらに国家試験対策の支援・研究を目的とします。

内容としては、

1) 基礎医学および臨床医学の講義・演習・実習

各学科の1～3年生に「わかりやすい医学」を主眼に小テスト等を交えて行います。

2) 医学教育セミナーおよび補習講義

各学科の3～4年生に、「解剖学・生理学」、「内科」および「整形外科」を中心に少人数補習セミナーを行います。

3) 国家試験対策

各学科の要請による国家試験対策講座において、各専門領域の教授が「出題する立場」で深く掘り下げて講義・演習を行います。また、各学科の学修支援会議にて企画・立案・調整等に参加し、学生の学習成績向上の改善に向け指導を行います。

4) 医学実習に関する実践

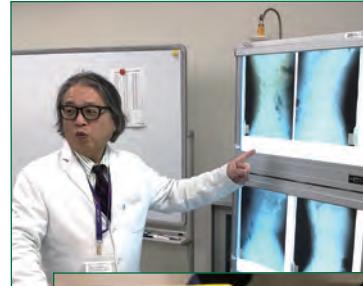
「人体解剖学実習」、「保健所実習」および「病院実習」の実践では「医学教育の理解向上」、「人体への尊厳」、「公衆衛生のあるべき姿」を学びます。

5) 共用試験(CBT)対策

看護学科、東京理学療法学科、理学療法学科および作業療法学科のCBTへの対策を各学科の教員と協議しています。

6) 学外活動

医学教育学会や私大情報教育協会の研究・発表を通じて、「学生主体のアクティブラーニング」研究と実践を行います。



TOPIC
02

～スタッフが全力でサポート～ 実践的指導力を備えた教員養成を目指して

教職センターは、教員への就職を希望する学生の学びを支える全学的な組織として千住、東京西の両キャンパスに設置されています。

現在のスタッフは、教育現場での経験が豊富な赤羽根直樹センター長を筆頭に、専任教員5名、特命教授・特命講師8名で構成されています。

主に、教育実習に向けた学生指導や実習校との連絡調整、教員採用試験に向けた指導、相談などを行っています。教育実習指導では、模擬授業の練習を繰り返し、実践的指導力を身につけられるよう指導しています。また、教員採用試験の対策は、筆記試験対策講座にとどまらず、小論文指導や面接練習などを受験地に合わせて実施しています。

このように教職センターでは、一人でも多くの学生が、教師となる夢を実現できるよう全力でサポートしています。



地域連携

～昆虫保全教育プログラムの開発と実践～ 絶滅危惧の蝶を子どもたちに伝えたい

現在、多くの生きものが絶滅の危機に瀕しており、保全・保護に向けた対策が急務になっています。昆虫は子どもたちにとって身近な生きものですが、正しい生態をもとにした絶滅危惧種の教材はありません。そこで、子ども向けの昆虫保護教育プログラムを開発しました。プログラムでは、絶滅危惧I類に指定されているオオルリシジミを題材に、プラ板を使ったキーホルダー作りや手袋シアターを使った手遊びを開発し、足立区や蝶の生息地である長野県や熊本県で実演しました。今後は教育機関と連携しながら啓発活動を継続していきます。(学校教育学科 江田 慧子)



～災害時にペットを守る～ ペット用防災ツールが小さな命を救う

日本では毎年のように災害が起り、大切な家族であるペットの命をどう守るかも大きな課題です。そこで、足立区やNPO法人と協力し、防災用の「ペット手帳」を作成しました。この手帳には、普段から飼い主の防災意識を高められるようにと、ペットの個別情報や避難グッズ、避難時の情報入手先等を掲載しました。さらにペット防災アプリも制作し、日常的にスマートフォン上で防災について考え、災害時には避難方法等がひと目でわかるようにしました。これらのツールを用いて、尊い命が守られるようにと願っています。(アニマルサイエンス学科 山本 和弘)

～大気汚染物質のキヌアへの影響～ キヌアの栽培方法の確立に向けて

南米の高地で食用として栽培されているキヌアは、栄養バランスの良い作物として注目されており、上野原市でも地域の特産品となるよう試験的に栽培が行われています。しかし、日本での栽培方法が確立されていないことから、安定した収穫には至っていません。そこでキヌアに関する知見を得るために、大気汚染物質を除去した部屋とそのままの大気を導入した部屋を準備し、それぞれの環境でキヌアを育てています。キヌアが上野原市の特産品となるよう、栽培方法の確立をめざしていきます。(自然環境学科 和田 龍一)



[他の地域連携活動はこちら](#)





DEPARTMENT

アニマルサイエンス学科

講師 宮田 拓馬

コミュニケーションの大切さを学ぶ

2019年6月、長年の悲願であった動物看護師の国家資格化が決定しました。私の研究室では、整形疾患や神経疾患などによる歩行困難など、何かしらの障害を負った動物の生活の質が向上するよう、動物へのリハビリテーションに取り組んでいます。ヒトとは違い、動物は痛い箇所や不自由なことなど直接話すことができないため、飼い主から情報を得ることが重要であり、飼い主とのコミュニケーションが大切になります。実際に、その動物を担当する学生には、飼い主と直接話してもらうことでその能力を養い、また責任感を持ってリハビリテーションに取り組んでもらえるようにしています。今後も実践教育を充実させながら、コミュニケーション能力に優れた学生を輩出できればと考えています。



DEPARTMENT

自然環境学科

准教授 辻本 敬

植物資源からつくる環境にやさしい高分子

近年、化石資源の枯渇や温室効果ガスの増加、廃プラスチックによる環境汚染などが社会問題化しており、その代替として自然界に豊富に存在するバイオマス資源が注目されています。バイオマス資源は自然界の動植物から持続的に得られる資源であり、このバイオマス資源を用いる高分子材料の開発は循環型社会構築の観点から強く求められています。バイオマス資源を原料とする高分子(バイオベースポリマー)は、自然界の循環サイクルに組み込まれるため、持続的に供給可能であるという優れた特長を有する環境調和型材料です。天然油脂やデンプンを原料とする高性能・高機能のバイオベースポリマーを研究・開発することで自然環境の保護に貢献したいと考えています。



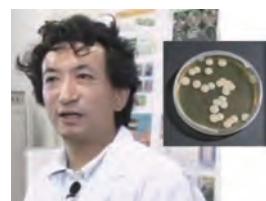
DEPARTMENT

生命科学科

准教授 上野 良平

微生物探索研究を通して

進歩が著しい生物学分野では、iPS細胞を用いた再生医療の手法開発や、生命現象の解明に関わる先端研究を行うために、多額の資金が不可欠です。立派な機材がないとスタートラインに立つことが難しいのです。他方、低予算で始められる微生物の探索は、大きな研究成果につながる可能性を秘めています。例えば、その辺のドブの水から、有害物質を分解してくれる種類や磁石をつくる種類、これまで知られている様々な系統の微生物のいずれにもあてはまらないものが見つかったりします。私の研究室でも、ストレスのある環境で長生きする微生物を、身近な環境から探索する活動を行っており、これらの活動を通して、学生に微生物学の魅力をもっと知ってもらいたいと思っています。



DEPARTMENT

理学療法学科

助教 相原 正博

理学療法科学学会の開催を経て

2019年6月22日(土)に第104回理学療法科学学会、第5回国際エクササイズサイエンス学会の合同学会が本学東京西キャンパスで開催されました。本学会は、国内外で年に数回開催される学会です。学会内容は、外部講師による講演、学部生をはじめ臨床や教育現場で働く理学療法士が研究報告を行います。例年、本学会で自身の行っている研究を報告しており、研究活動の良い刺激になっています。さらに、様々な領域の方との交流の場もあるため、大変有意義な時間を過ごすことができます。また、このような学会が東京西キャンパスで開催されることは、学生たちにとって、学会運営を学べるよい機会にもなっています。



DEPARTMENT 作業療法学科

教授 大関 健一郎

発達支援教育

私は、精神障害領域の作業療法士ですが、現在は小児・発達領域での臨床をしています。知的障害や発達障害のみならず肢体不自由児の場合であっても、精神的な不安定さが原因で日常生活活動に支障をきたしていることもあり、元来の精神障害の知識がかなり有効となっています。また、発達支援学校には難病といわれる病気を持った児童など、医学の知識がないと対応が難しいケースも多々あります。そのため、作業療法士などの医療職が学校に赴き教師とともに支援方法を考えることが非常に重要です。また、地域には発達支援センターというところがあります。そこで働く若手の作業療法士の相談を聞くことも、私の役割の一つです。



DEPARTMENT 柔道整復学科

助教 富田 圭佑

ストレス、運動と脳の関係

柔道整復師は骨や筋などのケガに対して施術をすることが業務です。ケガをした場合、その局所だけを注目しがちですが、ケガにより生じるストレスはさまざまな反応を引き起こします。私は、血圧や心拍など心血管応答とストレスに関連がある扁桃体に着目し、運動によるストレス依存性血圧上昇の抑制機序に扁桃体がどのような関わりを持っているかを研究しています。運動は心血管系の改善に有効とされていますが、その機序は明らかにされていません。先日、これらの反応に影響を与える可能性のある扁桃体遺伝子を同定し、第9回アジア・オセアニア生理学会連合大会で発表しました。今後も柔道整復の臨床に応用できるよう研究を重ねていきます。



DEPARTMENT 東京理学療法学科

教授 橋本 伸也

災害支援ボランティアに学ぶ

2018年9月、私の帰省先である北海道で地震が発生して42名が亡くなり約2千棟が全半壊しました。私が役員を務める北海道社会福祉協議会には北海道災害ボランティアセンターがあり、参集してください多くのボランティアの活動調整を行いました。障がい児者や高齢者は専門職の支援が必要です。避難所等には近在の施設の職員が駆けつけましたが、そのため手薄になった施設へは、周辺の施設から応援の職員が派遣され、利用者の分散も進みました。私が運営に携わる障がい者施設には別の相談が入り、障がい児デイサービスを臨時開設しました。親が安心して復旧にあたるためです。こうした体験から、不測の状況でも専門性を活かせる“学び”的大切さを痛感しています。



DEPARTMENT 東京柔道整復学科

講師 濱田 淳

これからの柔道整復師に求められる技能を習得

現在、私は骨折や脱臼の処置を学ぶ実技実習を中心に講義を担当していますが、その中の一つ2年生の「後療法」の講義を紹介します。まず、1年次に学んだ解剖学のうち筋・骨格系を復習しながら骨指標や筋肉の触診を行っていきます。次いで筋緊張や疼痛を緩和するための押圧や揉捏といった手技療法の技術の習得をめざし、ペアを組んでいるパートナーと繰り返し練習を重ねて習熟を図ります。またフットスタンプによる足圧の測定を行い、足部の疾患に対応したインソールの作成や超音波観察装置(エコー)を用いた骨、軟部組織の観察など、これから柔道整復師に求められる技能を教授できるよう心掛けています。



教員の活動報告

DEPARTMENT 看護学科

准教授 伊藤 靖代

認知症高齢者への理解を促すための工夫～YouTubeの活用～

65歳以上の認知症高齢者数は今や500万人を超える、どのような場で看護を実践するにしても、認知症高齢者に対する看護の知識・技術は必要であり、その重要性は増してきています。そこで、看護学科2年次前期の「老年看護援助論I」では、授業を受ける前に認知症高齢者の具体的なイメージを描けるよう課題を出し、理解を促す工夫をしています。課題はスマートフォンからもアクセスできるYouTubeの動画を活用しており、学生からは取り組みやすいと概ね好評でした。課題に対する学生の反応や学修効果をまとめ、学会発表も行いました。今後も学生に身近な媒体を課題や授業に活用し、学修へのモチベーションを高めていきたいと考えています。



DEPARTMENT 医療福祉学科

准教授 加藤 洋子

医療ソーシャルワーカーに魅力を感じて

加藤ゼミでは、病院で働く医療ソーシャルワーカー(MSWと言います。)をめざし学習や研究に取り組んでいます。病院で働くMSWは、難病・怪我・癌などの疾病や受傷した方の不安やさまざまな生活困難の相談に乗り、受診・受療や退院に向けて法制度等の情報提供・サービス等に繋ぐお手伝いや心理精神的支援をします。また、医療福祉関連学会に参加し医療福祉科学研究、施設・病院見学をとおして直接患者さんの気持ちや希望される支援などを教えて頂く機会を持ち、実践力を培っています。この4年間は、NRWカトリック大学教員や学生を迎えて最先端のドイツの医療福祉政策や日独の比較学習等の知識を深め、国境を越えて生涯の仲間づくりを行っています。



DEPARTMENT こども学科

特任助教 青木 直樹

「祭り」と研究

「祭り」を研究テーマにしてから7年が経ちました。幼い頃から「祭り」や神輿文化に触れ、1998年からは地域の太鼓を叩く会への参加、その後の青年会への参加で地域活性に微力ながら尽力しています。希薄化していく人間関係の拡げ方、深め方を「祭り」という媒体として探求し、地域の祭りを運営する側として、地域の教育力を取り戻し、子ども達に求められている「社会力を育てる」という目標を持って日々取り組んでいます。2018年に55周年を迎えた千葉県柏市にある「つくしが丘町会」の祭りに、ゼミの学生も一緒に参加することになりました。積極的になれない学生も、「祭り」という環境だと「自分をさらけ出す」ことができ、祭りの魅力やそこから創出される一体感、人と関わる面白さを経験してもらいたいと考えています。



DEPARTMENT 幼児保育学科

教授 本多 みどり

教育改革と公務員志望者サポートの両輪で活動

【研究活動】19世紀イギリス教育史が専門で、中等教員養成史、教育学の学問としての成立過程などを研究しています。2019年3月には、本学にイギリスの国立エクセター大学のロビンソン教授を招き、教師養成セミナー「教える力とは何か」を開きました。教育を改革する鍵は、主体的に改革しようとするボランタリーな活動です。その点で、イギリス人教師は長い歴史を持っています。【公務員勉強会の主催】公務員(保育士・幼稚園教諭)をめざす人のサポートを始めて、約10年が経ちました。この勉強会は、問題集をみんなと一緒に解きながら、教えあう活動を主としています。目的意識を持って、いかに脳みそに汗をかくか、協力し合えるか、そこが成否の鍵なのです。



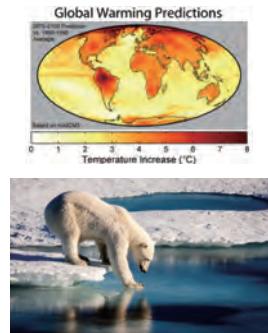
「英語の授業を英語で」行う教員養成をめざして

2019年4月に学校教育学科に新設した国際英語コースは、中学校・高等学校で「英語の授業を英語で」行うことができる教員を養成するためのカリキュラムを用意しています。開設前の3年間、海外語学研修の企画・実施、本コースの特長の1つとなるアジアの国での海外教育実習の視察、地域連携として8年前から私が監修している「TEIKA English Day」の企画・運営など、本コースに学生が入学した後に、より英語を使い、教える経験をし、異文化にも触れられる環境づくりについて考えながら、準備を進めてきました。学生たちと向き合い、日々、試行錯誤を繰り返しながら、一人でも多くの学生が教員になってくれることを願って、教員養成に励んでいます。



新しい学問のあり方を研究

私は総合教育センターの共通科目である環境倫理、生命倫理そして情報処理を担当し、現代を生きる人間に必要な倫理や人格、あるいは、情報倫理などIT化された社会の基礎的な知識や技術を教えています。また、総合教育センター長として本学の学生の全てが学ぶ教養教育、共通教育の計画や管理を行っています。気候変動や人工知能、遺伝子操作など、我々は今、地球や社会が激変するのを目の当たりにしています。もちろん、社会に出た後に必要とされる学問や知識、倫理も大きく変わります。総合教育センターではそのような新しい学問のあり方を研究し、教養の学びを新たにする努力を続けています。



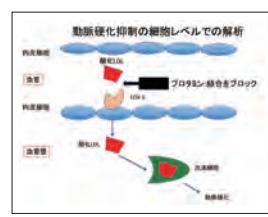
言語教育における幼稚園と小学校の接続をめざす

「小一プロブレム」に代表されるように幼稚園と小学校の接続が課題とされています。しかしながら、その論点は主に幼児と小学生の交流や教員同士の意見交換など、教育内容の周辺領域に集中しています。私の研究では、幼稚園と小学校の言葉に関する教育内容に注目し、フレーベルなどの理論を歴史的に辿りながら、文字教育(読み書き)の接続のあり方について検討しています。それは、幼稚園で小学校と同様の文字教育を行うことをめざすのではありません。小学校との円滑な接続のため、幼児が喜んで主体的に文字と関わる教育内容とは何かを探っています。



動脈硬化の抑制

私の研究テーマは、次の2つです。1 動脈硬化の抑制、2 がん転移の機構解明。今回は、1の動脈硬化の抑制に関して新しい成果を得ましたのでご紹介します。動脈硬化は、脳梗塞や心筋梗塞の発症に繋がりますので、動脈硬化を抑制する方法を見出することは、大変意義のあることです。動脈硬化とは、血管内皮細胞に酸化LDLが取り込まれ、血管が硬くなることです。酸化LDLが取り込まれるのを抑制すれば、動脈硬化が抑制できます。今回、私たちは、細胞レベルで、プロタミンが酸化LDLの取り込みを抑えることを見出しました。プロタミンはヘパリンを中和する目的で臨床で使われている薬剤ですので、臨床応用が可能です。今後は、動物実験で効果を確認した後、臨床でも成果をあげることを期待しています。



プロタミンが、LDLの取り込みを抑える機序を示します



大学附属施設ならではの細やかな診療 心がつながるケアで地域をサポート

帝京科学大学附属動物病院

当院では、獣医学大学の附属動物病院とは異なり、高度な獣医療ではなく、動物看護系大学の附属教育施設ならではの、人と動物の絆を大切にした特色のある診療科目を提供しています。動物達の日々の健康管理を担う「一般診療科」のほか、専門診療科として、「リハビリテーション科」「行動相談科」「家族の心のケア科」があり、それぞれの分野の専門家と獣医師、動物看護師、学生が協力しながら、心のこもった診療を行っています。お気軽にご相談、ご来院いただけましたら幸いです。

帝京科学大学附属動物病院 獣医師 佐伯 潤

東京都足立区千住桜木2-2-1 千住キャンパス本館内

TEL 03-6910-3768

○駐車場あり

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～ 12:00	○	○	○	○	○	×	×
14:00～ 17:00	○	○	×	○	○	×	×

※予約優先

詳細は
こちらから //



帝京科学大学八王子接骨院

当院は、2018年、八王子市南町（八王子駅北口徒歩10分）に開院しました。当院では、スポーツ中や日常生活で生じた「ケガ」に対し「なぜ痛めたのか」を追究する事に重点を置き、痛みの原因を確実に評価することで一人ひとりに合った「オーダーメイドの処置」を提供しています。また、再発防止のためトレーニングや、セルフケアなども指導しています。現在、地域の皆様をはじめ、本学教職員および学生にも数多く来院していただいています。お近くにお住まいの方は遠慮なくご相談ください。なお、当院は東京西キャンパスの柔道整復学科の臨床実習施設となっています。

帝京科学大学八王子接骨院 院長 吉田 真琴

東京都八王子市南町3-9 TEL 042-686-3833

アクセス

○鉄道

JR八王子駅北口から徒歩10分、

京王八王子駅西口から徒歩10分

○駐車場

接骨院正面に2台 他近隣に有料駐車場あり

詳細は
こちらから //



[クラブ & サークル]

PICKUP

陸上競技部 女子駅伝チーム



第69回全関東八王子夢街道駅伝競走大会
大学女子の部で2位(2019年2月)

2019年出場実績

- 5月 第98回関東学生陸上競技対校選手権大会
- 6月 2019日本学生陸上競技個人選手権大会
- 9月 第88回日本学生陸上競技対校選手権大会
- 9月 第25回関東大学女子駅伝対校選手権大会



指導者 有吉 正博

(顧問、学校教育学科、
関東学生陸上競技連盟会長)

本学陸上競技部は、千住キャンパスを中心に総勢27名の学生たちが関東学生陸上競技対校選手権大会をはじめ各種競技会の出場をめざして日々活動しています。チームスタッフには、小山慎一郎長(総合教育センター)、持田尚監督(学校教育学科)をはじめ、2018年度から強化部としてスタートした女子駅伝チームに、高田由基駅伝監督(学校教育学科)、西野愛梨コーチ(教務課)、浅井えり子アドバイザー(客員教授、ソウルオリンピック女子マラソン代表)が加わり、全日本大学女子駅伝出場をめざして着々と準備が整っています。千住キャンパスには全天候型の公認陸上競技場など恵まれたトレーニング環境や、医療科学部の有賀雅史(東京柔道整復学科)、宮下智(医療福祉学科)両先生のご協力など、本学独自のサポート体制の中で目標に向かって一丸となり活動しています。皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

PICKUP

柔道部



*本学での祝勝会の様子

柔道部実績

- ・ユニバーシアード大会団体個人 優勝
- ・オーストリア国際大会 第5位
- ・全日本学生柔道体重別選手権大会 準優勝
- ・講道館杯 準優勝
- ・全日本選抜柔道体重別選手権大会 出場
- ・全国体育系学生柔道体重別選手権大会 第3位
- ・皇后盃全日本女子柔道選手権大会 第5位
- ・東京学生柔道優勝大会 優勝

主なクラブ & サークル

部活動

- 体育系** 男子バスケットボール部／弓道部／剣道部／卓球部 ほか

- 文化系** 吹奏楽部／天文部／写真部／動物園研究部／野生生物研究部／ねこの目報道部 ほか

クラブ&サークル

- 硬式テニスサークル Tam Tam／軟式野球サークル BAY HAWKS／ストリートダンスサークル UNION／猛禽類勉強会 TRC-falconaria／カフェサークル Bonn Bush／一次創作サークル Animal Pallet ほか

部活動

- 強化運動部** 男子柔道部／女子柔道部／陸上競技部(女子駅伝チーム)

- 体育系** 陸上競技部／軟式野球部／バレーボール部／スポーツトレーナー研究部

- 文化系** 軽音楽部／吹奏楽部／アニマルライフ／写真部SPC

クラブ&サークル

- フットサルサークル Estavivo／JAZZダンスサークル an-J／ウインタースポーツサークル Parallel／演劇集団 虹／和太鼓サークル 桜奏／イラストサークル 四季彩／SAT(学生教育研修生サークル) ほか

東京西キャンパス

千住キャンパス

学園祭

科大祭



TOKYO WEST CAMPUS



桜科祭



SENJU CAMPUS



彩り輝く科大祭

皆様のご協力のもと、科大祭は第29回を迎えます。2019年度の開催は10月12日(土)・13日(日)で、テーマは「笑顔で染める彩りあるキャンパス」です。科大祭実行委員会をはじめ、関係者の方々、地域の方々、そして来場者の方々と科大祭をカラフルに染められることを願っております。科大祭実行委員一同、より良い大学祭を創り上げ、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

科大祭実行委員会 委員長 矢澤 彩花
教育人間科学部 こども学科 3年

第9回 桜科祭 ～咲～

こんにちは! 桜科祭実行委員会です!

2019年度の桜科祭は10月26日(土)・27日(日)に開催されますが、私達の学びの成果を楽しくご紹介できるよう準備を進めています。また、ご来場の皆様に楽しんでいただけるよう豪華賞品の当たるbingo大会、芸人の方によるLIVE等のステージ企画! 毎年大盛況の中央自動車道談合坂サービスエリアの野菜販売も行います。

ぜひお越しください! お待ちしております!

桜科祭実行委員会 委員長 今野 秀美
生命環境学部 アニマルサイエンス学科 3年

入学式

- 2019年4月4日
- 於 日本武道館
- 新入生
学部生 1,295名
大学院修士課程 18名
大学院博士課程 1名



編集
後記

1キャンパス1学部4学科でスタートした本学は、30年経った今日、2キャンパス3学部13学科3センターと成長を遂げてきました。本号では、1期、2期の卒業生と当時から在職している教員に、開学当時の思い出、さらには母校への期待など大いに語り合っていただきました。いつの時代も、母校の存続を願いその名を称える気持ちに、変わりはないと思います。引き続き、一層のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。(ニュースレターパーク会長 渡邊 浩一郎)